

事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	無	電話	042(769)8344
担当部課名	保健所	地域保健	課	成人保健企画
事務事業名	骨粗しょう症予防事業		事業コード	12210

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	保健サービスの充実	事業開始年度
基本施策名	第2節	市民健康づくりの推進	12年度
施策名	第1施策	保健サービスの充実	

2 実施根拠及び関連法令等

老人保健法 相模原市骨粗しょう症予防事業実施要綱

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
高齢者人口が進む中で高齢者が健康で質の高い生活を送るためには、寝たきりなど要介護状態になることを予防する必要がある。骨粗しょう症はねたきりの主要因となる骨折等の基礎疾患となり、高齢社会の進展によりその増加が予想されることから、早期に骨量減少者を発見し、骨粗しょう症を予防することを目的とする。		35～65歳の市民	
		対象数	255,564人
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
骨密度測定(超音波法)及び骨粗しょう症予防のための指導等を年12回実施。なお、測定結果「要指導」になったものには、グループ指導として保健師が食生活や運動習慣の改善の指導を行う。 実施場所 ウェルネスさがみはら、南メヂカルセンター、シティプラザはしもと(計3ヶ所) 参加人数 1,926人、委託金額(実績)4,581千円 《測定結果》 参加人数 正常値 要指導 受診勧奨 1,442人 449人 35人		健康診査の充実	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名 相模原市高齢者保健福祉計画	
		計画年次 12年度～16年度	
		介護状態の予防の視点から、平成12年度より寝たきりの要因となる骨折等の予防として本事業を保健事業の推進の一つとして実施する。	

4 評価指標

指標名	事業参加率	参加者の事業満足度
指標式	事業参加人数 / 年間参加定員 × 100	事業に満足と回答した人数 / 参加人数 × 100
指標設定の意図	参加目標数の定員に対しての事業の参加割合を表す	参加者の事業に対する満足度をアンケート調査から算出

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度
	実績	実績	実績	目標	目標
指標		81	a 80	b 100	100
指標		87	c 86	d 100	100
指標			e	f	
事業費	決算(予算)額	4,641	4,611	5,096	5,093
	人員・時間数		1人	1人	1人
	人件費		8,420	8,420	8,420
	その他経費				
	合計	0	13,031	13,516	13,513
特定財源		279	165	0	130

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 83.4%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%>)		
$\frac{a}{b} = \frac{80.3}{100.0} \times 100 = 80.3\%$	$\frac{c}{d} = \frac{86.4}{100.0} \times 100 = 86.4\%$	$\frac{e}{f} \times 100 =$	
理由:	35～65歳の者を対象に実施しているが、約98%が女性であり、全体の約70%以上の者が50歳以上であり、受診者に偏りが見受けられる。予防の観点からは、今後は若年者の受診率の向上が必要。 要指導者への事後指導等の他事業との連携を図るようにする。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	寝たきりの要因となる骨折を引き起こす骨粗しょう症を予防することは、高齢率が進む中、寝たきりや介護状態に陥る人数を抑制することができ時代に適応した事業といえる。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 A ▼	A:妥当である	理由:	定員を越えて予約が入る場合が多くあり(12回中8回は定員以上の予約あり)、当初想定していた参加人数を満たしている。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 B ▼	A:代替の可能性ない	理由:	骨密度測定等一部委託事業としてすでに実施している。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A:満足できる	理由:	事業内容としては、アンケート調査から満足を得ているが、定員を越えて予約が入る場合が多くあり、受診できない人が一部いる。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	高齢化が進む中、介護状態になることを未然に予防する視点から、今後も継続する必要がある。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	説明: 参加者は高齢の方が多く、骨粗しょう症予防の観点からは30、40歳代の参加向上させる必要がある。
	コスト改善余地	
	<input type="checkbox"/> ある <input checked="" type="checkbox"/> ない	説明: 骨密度測定等については、すでに委託事業として実施している。

7 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較	骨粗しょう症検診事業:川崎市、横須賀市、秦野市、逗子市、厚木市、南足柄市 骨粗しょう症予防教室として実施:横浜市	
	今後の進め方			
	<input checked="" type="checkbox"/>			継続
	<input type="checkbox"/>			見直し
	<input type="checkbox"/>			廃止
<input type="checkbox"/>	完了	説明	老人保健法に基づく骨粗しょう症予防事業は、高齢率が進む中、疾病の発見だけでなく骨密度の測定を行うことにより健康に対する啓発にもなり、寝たきり予防を充実させるため保健事業として継続していく。	

8 二次評価における変更点

--